

資料2

金銅両界大日如来・聖観音菩薩懸仏 永仁四年銘

(こんどうりょうかいだいにちによらい・しょうかんのんぼさつかけぼとけ
えいにんよねんめい)

<概要>

「金銅両界大日如来・聖観音菩薩懸仏 永仁四年銘」は、ヒノキ板に銅と鍍銀¹の鏡板を張り、表面に銅と鍍金からなる半肉彫り²の金剛界・胎藏界の両界大日如来と聖観音菩薩の尊像を貼り付けた懸仏である。

3面の懸仏は、全て同じ細工で、尊像を高肉^{たかにく}に表しているが、腕・膝等の造形は曖昧で、衣文^{えもん}も太めの毛彫り³で簡略に表現している。墨書も同筆と考えることができ、知多郡大野庄大福寺に祀る本地仏であることを示しており、永仁四年(1296)に製作、奉懸されたものであると考える。

これらが鎌倉時代後期の懸仏の秀作にして典型作であることは間違いなく、墨書銘が大興寺、あるいは大野庄大福寺の寺史、鎮守との関係などについての事情を示す史料価値も有しており、貴重な中世工芸の作品である。

1 鍍銀：銀メッキのこと。

2 半肉彫り：浮き彫りの一種で、文様の盛り上がりが高肉彫りと薄肉彫りの中間のもの。

3 毛彫り：鋭く先の尖った刃を使い、細い毛の様に線を彫っていく技法。



金銅両界大日如来（金剛界大日如来懸仏）（愛知県教育委員会提供）



金銅両界大日如来（胎藏界大日如来懸仏）（愛知県教育委員会提供）



聖觀音菩薩懸仏 (愛知県教育委員会提供)